

## 2020 年度第 1 回 JAKLE 定例役員会議事要録

- ・日時：2020 年 6 月 20 日（土）午後 3 時～5 時
- ・場所：Zoom によるオンライン会議
- ・出席者 呉英元顧問、姜奉植名誉会長、文慶喆会長、林文澤監査、文嬉眞筆頭副会長、金永鍾副会長兼信越・北陸地区理事、金世徳副会長兼編集委員長、酒勾康裕総務理事・財務理事兼近畿地区理事、柳朱燕副総務理事兼編集副委員長兼中部地区理事、金珉秀教育理事、崔壯源広報理事兼東北地区理事、李暎洙国際理事、徐寅錫外部資金理事、李淑炫関東地区理事、睦宗均近畿地区理事、李相穆九州・沖縄地区理事  
委任状提出 金恵鎮教育理事、細田広報理事、呉文慶国際理事、池緒媛国際理事、陳慶智国際理事  
欠席者 金昌九北海道地区理事  
役員会の定足数は全役員（第 6 期 22 名）の委任状による参加者を含み過半数とすることが会則に定められているため本役員会の開催は成立
- ・配布資料は Google ドライブに共有済、要録に記載のある資料番号等はファイル名を指す

### \* 報告事項

1. 第 6 期役員の仕事内容・分担の確認 <会長>  
会長より資料「報告事項\_01\_第 6 期学会役員等名簿（修正 2020. 6. 18）」に基づき第 5 期に続き第 6 期も委嘱した旨の説明、また役員への負担軽減のため複数名で担当することの説明、新規委嘱役員への紹介がされた。
2. 第 10 回学術大会終了報告 <第 10 回大会運営委員長>  
第 10 回学術大会収支報告 <第 10 回大会運営委員長>  
第 10 回大会運営委員長より大会中の参加人数（1 日目約 100 名、2 日目約 180 名）、大会誌 250 部が全て配布されたことの報告がされた。また、資料「報告事項\_02\_2019 年度大会支出報告書」に基づき大会経費に関する収支報告がされた。
3. 第 10 回総会報告 <総務・財務理事>  
総務理事より資料「報告事項\_03\_01\_および 06\_2020 年度第 1 回\_総務財務\_報告事項」に基づき第 10 回大会後に開催された総会に関する報告があった。参加人数約 50 名であったことのほか、2019 年度収支経過報告、学会誌第 10 号刊行計画報告、第 11 回大会計画報告が行われたことの報告がされた。
4. 学会誌「韓国語教育研究」第 9 号の刊行及び送付等 <編集委員長>  
学会誌「韓国語教育研究」第 9 号の収支報告等 <編集委員長>

編集委員長より資料「報告事項\_04\_2020 年度第 1 回役員会関連書類（編集委員会）」に基づき第 9 号に関わる発行部数（150 部）、送付件数（48 部）、収支（収入のほか、査読料等の内訳を含む）に関する報告がされた。また、第 10 号より表紙等のリニューアルが計画されていることの報告がされた。（協議・審議事項にて関連内容あり）

#### 5. 2019 年度収支決算報告 <監査>

監査より財務理事の作成資料「報告事項\_05\_01\_2019 年度学会収支報告書」に基づき監査が行われ、予算の適切な執行が行われていることの報告がされた。

#### 6. 年会費入金状況 <総務・財務理事>

財務理事より資料「報告事項\_03\_01\_および 06\_2020 年度第 1 回\_総務財務\_報告事項」に基づき、登録会員数（154 名、前年度 6 名増）、賛助団体（2 団体、増減なし）のほか、2019 年度年会費納付人数 61 名、賛助団体 2 団体であること、2017 年度以降 3 年以上会費未納人数が 55 名であるとの報告があった。

#### 7. 各役員からの報告等 <各役員>

特になし

#### 8. その他

特になし

### \* 協議・審議事項

#### 1. 2020 年度学会暦（案）について <会長>

第 1 回定例役員会の開催が本日（6 月 20 日）となったが、以降の学会暦は資料「協議・審議事項\_01\_2020 年度日本韓国語教育学会暦（案）」にある通り、ほぼ予定通りに行われることが確認された。

なお、第 11 回学術大会は 10 月 31 日（土）に東北大で開催される予定で、大会本部を東北大に置くとの説明がされた。（詳細は以下の 3. にて協議・審議）

#### 2. 2020 年度予算（案）について <会長>

第 11 回学術大会開催等に関わる予算申請 <大会担当副会長>

学会誌第 10 号刊行等に関わる予算申請、第 10 号への投稿案内及び刊行等について

<編集委員長>

会長より「協議・審議事項\_02\_2020 年度収支予算書（案）（200620）」に基づき予算項目の説明がされ、2020 年度の予算案が承認された。なお、第 11 回学術大会に関わる予算および学会誌第 10 号刊行等に関わる予算は学会予算項目に含まれている。

### 3. 第 11 回学術大会開催について <大会担当副会長・大会運営委員長>

開催形式について意見交換 (p. 4「◆参考：第 11 回学術大会開催方式に関する意見」参照) がなされた。その結果、オンラインで実施することになったが、運営上の問題は議論の内容を参考にしながら大会運営委員会で実務担当を構成後、詳細を詰めていくことになった。また、7 月中に役員会を開催し、運営方法等について確認することになった。なお、大会誌は作成する方向で、また基調講演についても検討を続け、講演者への交渉は会長が行うことになった。

### 4. その他

次の各事項について意見交換がされた。

#### ・学会誌について

現在の学会誌のサイズが B5 であるが、リニューアルのタイミングで A4 への変更について意見が出された。

#### ・ホームページについて

現在、査読付き論文のみ PDF ファイル形式で閲覧ができるようになっており、今後順次アップされる予定であるとの報告があった。これにつき、ホームページの論文公開につき、事前協議を行い、公開する場合は会員限定にする必要があるのではないかとの意見が出され、以後の協議事項となった。

#### ・会則について

会則に定めのない理事が設けられているようであるとの指摘があり、会則に則った運営の必要性について意見が出され、今後会則の再点検が必要であるとの意見も出された。

会則の変更が必要な点については 7 月以降に開催予定の第 2 回定例役員会にて議題として取上げ、必要な手続きを取るようになった。

#### ・研究理事兼関東地区理事の都合により理事としての活動を一時休止するとの報告がされた。

◆参考:第11回学術大会開催方式に関する意見(出席理事全員オンラインによる開催に賛成)

- ・2021年度に延ばすよりこれまでの継続性もあるため、実施した方がいい
- ・運営の問題のないように事前に十分予行演習をする必要がある
- ・参加費などをもらうことはできないのでは
- ・会員への事前周知も必要である
- ・今からの準備作業では、大会誌の作成は急ぐ必要がある
- ・オンラインですることの日にちを決めて会員に周知する必要がある
- ・他学会等の実施事例を集めて検討して実施する必要がある
- ・基調講演の依頼が急務
- ・Zoomを用いるのであればプレ学会として事前に試験運営をするのはどうか
- ・問題点の洗い出しを行い、一つずつ解決していくべき
- ・PR映像を作成する等、全会員への周知を徹底して行う必要がある
- ・分科会をZoomにてそれぞれ空間(発表会場)を設ける場合、月2,000円の有償プログラムを使うことで分科会の開設は解消できるのでは
- ・どのような形で行うか選択肢を設けておき、選択するのはどうか  
例:a. オンライン(オンデマンド、リアルタイム)、b. 発表者だけが集まって発表を行い聴衆はZoomでの参加も可能、c. 既存のオフライン形式、d. オフライン+学会の状況をリアルタイムで配信(発表者はリアルタイム、聴衆は後日動画視聴可能など)
- ・学会を広く宣伝できる機会にもなるのでは
- ・学術大会として統一感を持った運営が必要
- ・発表の場を作ることが学会の仕事
- ・他学会の事例では、これまで開催地より遠方に在住している会員がオンラインになることで参加ができ参加人数が増加したとの事例もある
- ・通信等の多少のトラブルはやむをえないのでは
- ・準備を進めるにあたり、日程のデッドラインを決めて作業する必要がある
- ・発表者が集まるかが懸念される
- ・発表が研究業績として認められるよう保証する必要あり
- ・大会誌の発行を電子版とする場合でも既存の大会と同様である点を説明すべき
- ・発表者は大会会場に集まりリアルタイムで配信する等の方法を検討する必要
- ・海外からの参加がしやすいというメリットもある
- ・予測できない状況は続くであろう

- ・Zoom で分科会を行うと運営側の管理や当日の運営が煩雑であり分科会を設けずに運営することはどうか
- ・大会を2日間とし、基調講演を1日目に行い、研究発表を2日目に行うことはどうか
- ・会員限定の大会とすべきか、現在非会員でもいつまでに新規会員登録すれば参加可能になるか
- ・セキュリティの面より参加者のオンライン上での参加設定
- ・アンケートを取った上で非会員でも参加可能にすることはどうか
- ・非会員でも参加費を徴収するか、参加費を設定すべきか